

♥♥文庫あれこれ♥♥成人式も今年は静かに？すんで、寒さ真っ只中。みなさま、お元気で新年をお迎えのことと、存じます。文庫のキッチンの窓から枯れ草に覆われた大室山の稜線が見え、空はどこまでも青一色です。桜の枝をいま、台湾リスがスルスルと降りていきました。◆台湾リスと言えば、昨年秋から愚息が15年暮らしたアメリカから台湾での研究生活に変わりました。近くなった分、ざわざわと？息子の存在が日常に戻ってきた感が…。子どもは元気で外がよい？！（一家を構えた4人の子どもに平等に気を遣うのも大変。）◆私事で恐縮ですが、3年越しの右下肢の痛みについて耐えかね、会員Aさんお薦めのカイロプラクティックに通い始めました。効果を期待しています。ともかく、減量せねば。◆読書家の男性会員Oさんのリクエストに『図説古事記』(入庫済)がありました。今年、源氏物語から古事記へ世の中が動いている？先週、日経新聞で、古事記にまつわる書籍、作家の動きを伝えていましたし、私の所属するおはなし会では、5月に古事記を語る会を開きます。天の岩戸、八岐大蛇、因幡の白兔など、私たちが子どものころの教科書には載っていましたが、古事記は現天皇家を正統たらしめる書物として、あまり歓迎されなくなったようです。が、読み直してみると、おなじみの昔話の原点をそこそこ見つけることができます。そのうち、関係書を何冊か展示いたしましょう。◆どなたかリクエストして、文庫のNさんにご自分の蔵書を持ってきてくださった本『大地の子エイラ 上』が、一月眠ることになって、手にとりました。翻訳者の前書きではありませんが、脇目も振らず読破。東京の図書館で予約して、中も下も夢中で読みました。副題が始原への旅たちなのですが、3万年以上前、ネアンデルタール人と、クロマニヨン人に接点があり、その混血の子も存在！内容は、またご紹介するとして、私は、まず、5人の子持ちの一介のワーキングウーマンが、探究心と想像力で書き上げたこと(これは9冊にもなるシリーズ)に感動しました。そして、図書館で調べるうちに、私の読み始めた1980年代の中村妙子訳(評論社)の児童書(良かった)のほかに、作者ジーン・アウルはもともと大人に向けて書いたそうで、2000年代に入って大人向けとして新たに翻訳されていることがわかり、ともかく、大久保寛訳の『ケープ・ペアの一族』も読み始めています。ここで、改めて、外国書は翻訳されているということ、を考えさせられました。◆クリスマスお楽しみ会は大勢の小さな人たちで溢れました。◆寒さますます厳しくなる折から皆様ご自愛ください。本年もご一緒に本輪加(ほんわか)しましょ！ [西村]

“ “これからの催し物のお知らせ” ”
春よこい・スペシャル

子どももおとなもおはなし会

日時 3月22日(日)午前10:30~11:30

おはなしのベテランおばあちゃんおふたり来館

平塚ミヨさん・古市静子さん

★伊豆高原・わらべ絵館開館5周年記念のイベントとして、3月21日(土)夕方から、おはなしとフルートの夕べがあります。(詳細は、直接、わらべ絵館にお尋ねください。)語り手は、上記・平塚さん、古市さん、西村です。フルートは伊豆高原在住のお父さん方だそうです。何だかたのしそうですね！

<アートフェスティバル>に今年も参加します。

日時 5月10日(日)~17日(日) 10:00~15:00

ミニ絵本原画展・調べ学習コンテスト優秀作品展・子どものためのおはなし会・おとなのためのおはなし会 などなど。詳細は3月のおたよりで。

☆☆2009年前半の開館スケジュール☆☆

- ◆2月は変則第4土日(21、22日)です。
 - ◆3月も変則第4土日(21、22日)です。
 - ◆4月は通常の第3土日(18、19日)です。
 - ◆5月は10日~17日まで開館。開館時間午前10時~午後3時。土曜は午後2時~5時迄。
- ※文庫の時間：通常、土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時
 ※毎月開館日の日曜は、「子どものための小さなおはなし会」があります。午前10:30~11:00
 ♥文庫開館日は通常、毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。
 おはなしの勉強会は、
 2月、3月とも、開館日の土曜11:00~です。

沙羅の樹文庫だより

No.29

(2009年1月号)



(春を待つ)

大空

おおぞらたかお 作

大空に高く手をのばしてみて

ぼくが むかえて

あげるから

(『こどもがつくる のはらうた①』より)

小6・平石卓朗君/作

寒中お見舞 申しあげます。
 さむい朝、新聞をとり、ごみを捨て、背を丸め、外気のなかに立つ。でも、少し頑張っでぐーんと、手をのばしてみると、凜とした気分。空が新しいエネルギーを与えてくれるような…。
 不穏な社会情勢ですが、新年は青空で明けました。本年もよろしくお願ひいたします。みなさんが、沙羅の樹とともに楽しいひとときを持てますよう。

紹介 大人の本・文庫にある本

『図書館ねこデューイ』(ヴァッキー・マイロン著 羽田詩津子訳 早川書房 2008)

動物好きの私は、以前、『としょかんライオン』をおすすめしましたが、今度も『図書館ねこデューイ』を紹介するなんて、「ちょっと くだい!!」。と思われるかもしれませんが、でも、やっぱりおすすめしたい!

これは、アメリカの小さな町で本当にあったお話なのです。1988年1月、気温マイナス15度C。すべてが凍る寒い朝、アイオワ州スペンサー公共図書館長ヴィッキーは、本の返却ボックスから、小さな生きものを見つけました。その生きものは小さな小さな猫で、デューイと名づけられました。

反対する人もいました。いろいろ問題もありました。でも、なんと館長ヴィッキーは、この猫を図書館で飼うことにしたのです。デューイは、図書館のスタッフのみならず、来館者、特に子ども達を幸せにしてくれましたし、又、彼等からも愛されて一生を送ったのですが、読み進んでいくうちに、この本は、助けられた猫のお話だけでなく、助けた館長ヴィッキー、すなわち著者の歩いてきた人生の、離婚から、ひとりでの子育て、病い、いろいろ辛い時が、織り込まれるように語られているのに、気づかされます。彼女の、力強く生きる姿勢とやさしさが素晴らしいと思いました。それと、日本では考えられない公共図書館内での猫の飼育。そういうのって いいなあ——。(森川 理恵)

◎森川さんの動物好きは文庫で知らぬ者なし。さて、『川の光』という本では図書館ねこならぬ「図書館ねずみ」が活躍します。図書館ねこ、図書館いぬ、図書館らいおん……。残念ながら猫が苦手なわたしは、図書館に猫がいたら、避けて通ると思いますが、日本では自己責任に裏打ちされた個人主義は根づかないのでしょうか。

新しく入った大人の本

『この世のときを』(ヴィルヘルム・ムーベリ著※スウェーデンのノーベル賞作家 山下泰文訳 北星堂 2008)『星の王子さまの眠る海』(エルヴェ・ヴォドワほか著 香川由利子訳 ソニーマガジズ 2005)※**リクエスト**『さよなら溪谷』(吉田修一著 新潮社 2008)『存在の耐えられない軽さ』(世界文学全集 1-03) (ミラン・クンデラ著 西永良成訳 河出書房新社 2008)※**リクエスト**『セーヌの川辺』(池澤夏樹著 集英社 2008)『優雅なハリネズミ』(ミュリエル・バルベリ著 河村真紀子訳 早川書房 2008)『アカペラ』(山本文緒著 新潮社 2008)『とんび』(重松清著 角川書店 2008)『トゥイーの日記』(ダン・トゥイー・チャム著 高橋和泉訳 経済界 2008)『なぜ君は絶望と闘えたのか—本村洋の3300日』※光市母子殺害事件の記録 (門田隆将著 新潮社 2008)

『クラッシュ』(佐野真一著 新潮文庫 2008)『ニューヨークのとけない魔法』(岡田光世著 文春文庫 2007)

<以下、寄贈>

『図書館ねこデューイ』(左記紹介文参照)『独り祝言—鎌倉河岸捕物控 13』(佐伯泰英著 ハルキ文庫 2008)『黙契』『御暇』(交代寄合伊那衆異聞 8.9) (佐伯泰英著 講談社文庫 2008)

★上記のほか、たくさんの寄贈がありました。感謝。

新しく入った子どもの本

『クロニクル千古の闇 3 魂食らい』(ミッシェル・ペイヴァー著 さくまゆみこ訳 評論社 2007)※**リクエスト**『吟遊詩人ビートルの物語』※ハリポタ作者最新作 (J. K. ローリング著 松岡佑子訳 静山社 2008)『ルティおばさん女王さまにへんしーん!』(シビレ・ハイン作 川西美沙訳 瑞雲舎 2008)『なぜ戦争はよくないか』(アリス・ウォーカー作 ステファノー・ヴィタール絵 長田弘訳 偕成社 2008)※**リクエスト**『まあちゃんのながいかみ』(たかどのほうこ作 福音館書店 1989)『忘れても好きだよ おばあちゃん!』(ダグマー・H・ミュラー作 F・バルハウス絵 ささきたづこ訳 あかね書房 2006)『長ぐつをはいたねこ』(ハンス・フィッシャー文・絵 やがわすみこ訳 福音館書店 1980)『ブレーメンのおんがくたい』(グリム童話 ハンス・フィッシャー絵 せたていじ訳 福音館書店 1964) ★今回このほかに100冊近い子どもの本(寄贈)が仲間入りしました。

☆詩をひとつご紹介☆

祝婚歌

(吉野 弘)

二人が睦まじくいるためには
愚かであるほうがいい
立派すぎないほうがいい
立派すぎることは
長持ちしないことだと気付いているほうがいい
完璧をめざさないほうがいい
完璧なんて不自然なことだと
うそぶいているほうがいい
ずっこけているほうがいい
互いに非難することがあっても
非難できる資格が自分にあったかどうか
あとで
疑わしくなるほうがいい
正しいことを言うときは
少しひかえめにするほうがいい
正しいことを言うときは
相手を傷つけやすいものだと
気付いているほうがいい
立派でありたいとか
正しくありたいとかいう
無理な緊張には
色目を使わず
ゆったり ゆたかに
光を浴びているほうがいい
健康で 風に吹かれながら
生きていることのなつかしさに
ふと 胸が熱くなる
そんな日があってもいい
そして
なぜ胸が熱くなるのか
黙っていても
二人にはわかるのであってほしい

(『ポケット詩集【1】』 童話屋)より

★この3月で夫さんが定年退官。43年目の結婚生活ですが、互いに好き勝手にやっても、相手が頑張って一生懸命生きていることに、適度の共鳴と緊張で結ばれた絆だったように思います。はてさて、これから、この詩のような間柄になれるのでしょうか。ある新年会でこれを耳にしたとき、夫婦としてのこれから(最後の仕上げ)に、一抹の不安と、そこはかとないいとおしさを感じました。(沙羅の樹同人)